

随想

庭木に思いを込めて

東京室内装飾事業協同組合
理事長 安田勝彦

五月下旬に業界の関連で島根に旅をした折、足立美術館に立ち寄りしました。庭園美で著名なところと聞いており、大いなる期待を持って訪れました。まさに感動の一言です。横山大観をはじめ、川合玉堂、竹内栖鳳、橋本閑雪、上村松園など近代日本画壇の巨匠たちの作品群、また河井寛次郎、北大路魯山人等の優れた作品の数々は、素晴らしいものばかりで、心が落ち着き、深い感銘を受けました。

それと並んで、感心したのがその庭園の素晴らしさです。

「庭園もまた一幅の絵画である」は創設者・足立全康氏の言葉ですが、ここから発想されたのではないかと思わる程、素晴らしい庭園であり、氏の言葉は、ま

たその魅力を端的に言い得ていると、改めて感心しました。

地元の人からは「島根県は天候が定まらず、一年を通して傘を持ち歩くことがごく普通のこと」と、聞いておりましたが当日、五月晴れの好天に恵まれたことも大変よかったですと思います。どの角度から庭園を見てもその視界の中、遠景にいたるまで現代の建造物たとえば送電の鉄塔、巨大建築物等の自然になじまない物は一切なく、緑の稜線の上は、紺碧の空でした。自然の景観の美しさ、素晴らしさにしばし見とれた程です。

そして美術館の外庭です。

13,000坪の広大な日本庭園、枯山水庭、白砂青松庭、池庭……。それぞれの樹

木の若葉青葉が鮮烈に映え、庭園全体が生き生きと春を謳歌しているのを、肌で実感いたしました。歩みを進めますと、眼前に広がる閑雅な風情は、館内の日本画と相まって心がなごみ安らぐものを感じました。展示室は随所に庭が見られる構造になっており、それがまた位置によっては「一幅の絵」として見られるよう工夫されているのです。これには驚きました。画壇の巨匠たちの名画が庭園の景観との相乗効果で一層深い感銘に魅了されたことは大変よかったと思います。

私は都心の生まれです。戦前戦後の一時期に地方での生活もありましたが、その後また東京での生活です。職業柄、時には昼も夜もなく、また土日もない業務の遂行で年が過ぎ、現在は70を越して古希を迎える年齢に至りました。

足立美術館の庭園の美しさにあれほどまでに魅了され、感じ入ったようなことは若い頃にはなかったように思います。

いま我が家の庭を見て、改めて70年という歳月に感慨深いものを感じています。20代に住み着いて、かれこれ50年は経つ家屋も庭も、何度か手を入れ、あれこれ変えてはきましたが、庭に眼が行き思いが高まるのはやはり年齢と歩調を合わせて来たように思います。現在は20

坪弱の小庭ですが、ここかしこにそれなりの思い出があり、愛着があるものです。

我が庭の樹木の種類を改めて数えてみて、正直驚きました。決して庭造りに凝ったというわけではありませんが、こんなにも増えていたのかと。

西から列記してみます。

杏(アンズ)、山茶花、荒獅子(椿)、バラ、庭桜、金木犀(キンモクセイ)、コデマリ、サツキ、柿、五葉の松、アオキ、葉ラン、蘇芳(スオウ)、紫陽花、シャクナゲ、乙女椿、木蓮、シュロ、ボケ、つつじ、シロチク、花水木。この他に名のわからないものが3種。

この狭い庭に20種類以上の樹木が混在し、四季折々にそれぞれの花を咲かせ心を和ませてくれます。梅雨のこの時期は紫陽花が咲き乱れ、藍色の濃淡が緑の中で鮮やかな色を浮き立たせております。

木々の花は季節を連れてきます。

わが庭では、冬が過ぎて柿、木蓮、花水木、杏が新芽を出します。まず杏が花をつけます。遠目で見ると桜のようなピンクの花が咲きます。次に木蓮が紫色のチューリップのような花を開き、追うように庭桜が咲き、そして花水木が白い花びらを広げます。ここに私は春爛漫を感じます。

一番古くからある五葉松の古木も新芽を吹き出し「オレも生きているぞ」と、鮮やかな緑を誇示してくれます。今年は元気ですが、この松も何度か枯れる危機に見舞われております。その都度とった処置が適切だったのでしょう、危機を何とか乗り越えて現在に至っております。松は特に手入れが難しいと、庭師からも聞かされました。

庭木にはいろいろ思い出があります。

西端にある杏は、昭和36年、初めての子供・娘が生まれた年でした。記念にと植木市でサイバシ程の苗木を買い求め、植えたものです。それが今では二階家を越える勢いで生い茂っています。庭師に年に一度剪定してもらっているのですが、この大木に40年余の年月を実感しております。

昭和41年の倅が生まれた年には柿の木を植えました。それも今では大きく成長し、元気に枝葉を伸ばしています。富有柿として秋には見事な実をつけます。昨秋は30個余を収穫しました。

荒獅子の椿は、かつて虎の門の表通りに植木市が立っていた頃、たまたま立ち寄ったときに「荒獅子」という名が気に入り、出来心で買い求め、車の荷台に積んで持ち帰ったものです。これも大きく

育ち、大輪の赤い花を咲かせております。

年齢のせいでしょうか、庭に眼が向くことが最近特に増えてきたように思います。足立美術館の庭園には遠く及びませんが、我が家の小庭も、私の心を癒してくれ、また新しい意欲を呼び起こしてくれ、ありがたいと感じております。

(東京都中央会 理事)

